

平成20年（2008年）4月30日

横須賀市議会議員様

横須賀市企画調整部長

在日米海軍から米海軍兵による犯罪再発防止策について（報告）

本日、ジェームズ・D・ケリー少将が蒲谷横須賀市長と山口横須賀市議会議員、嶋田横須賀市議会副議長に対する報告のため本市を訪問しました。
その際の会見概要、及び米側の発表内容について報告します。

事務担当：基地対策課
内線1376

在日米海軍から米海軍兵による犯罪再発防止策について

日 時 平成20年4月30日(水) 10:00~11:10

要 請 者 横須賀市 蒲谷 亮一 市長
山口 道夫 市議会議長

対 応 者 米 側 ジェームズ・D・ケリー少将
(在日米海軍司令官)

同 席 者 横須賀市 杉本 俊一 副市長
上田 順子 副市長
嶋田 晃 市議会副議長

米 側 ジョーンP・ニーマイヤ政務補佐官他
(在日米海軍司令部政務補佐官)

米側から再発防止策が市長、市議会議長に手渡され報告があった。

ケリー少将 安全な街に住めるように再発防止策を作りましたので、市長と議長に報告します。海軍と家族達全員が一緒になって取り組むことを約束します。

これまでの反暴力プログラムを参考に、若い隊員だけでなく日本にいる海軍の隊員と家族達軍属全員を対象としたCAREプログラムを作成しました。

ケリー少将 CAREのC・A・R・Eはそれぞれ意味を持っています。CAREは物を大事にする又は心配するとかそういう意味で、2つの意味を持っています。一番最初は教育と訓練です。問題がある場合は上司が把握し重大な問題がある場合は横須賀、日本に置けないので早めにアメリカに帰す、あるいは海軍を除隊させる。そこまで考えてこれから実施したい。ケアのもう一つの狙いは若者とか隊員を指導する上級の下士官達に、この人問題があるとか、チェックリストで把握する、そういう教育を含めてやっています。

ケリー少将 在日米軍の司令官らが在日米海軍がやっているプログラムを見て

日本中の在日米軍もこのケアプログラムを使うかもしれない。在日米軍がこのプログラムを使い結果が出れば海軍全体が日本だけでなく世界中にもこのプログラムが広がるかもしれない。簡単に言うと安全な職場や街を作るためには暴力は許さない。ルールがあるということ認識すること。ポイントは暴力の兆候を見逃さないということです。この対策はジョージワシントンにも送っています。

ケリー少将 脱走兵の情報は伝えるべき情報なので日米合同委員会の中で前向きに進んでこれから米側から日本側に情報を迅速に報告するシステムを作っている。外務省も早めに作ろうとしていて我々も協力している。

CAREプログラムの概要

C = Combined (統合された)
A = Anti-Violence (反暴力のための)
R = Reflection & (反省と)
E = Education (教育)

- (1) これまでにも、既に実施されていた教育や訓練に加え、米兵全員の素行状態を、各部隊におけるその上司が、チェックシート等を利用して把握。
万が一、暴力的な面が所見された者には、周囲からのサポートやカウンセリングを行い、それでも改善できない場合は、外出制限や本国送還などの厳しい処分も検討するというプログラムです。
- (2) 各部隊の隊員に対して、その上司が、行動面、精神面等広範にわたる項目のチェックを行い、潜在的な暴力的な兆候を決して見逃さずに、問題の早期解決を図るというものです。
- (3) このプログラムは、米海軍第七艦隊と米海軍の全ての陸上部隊、軍属、その家族に対し適用されます。
- (4) 今後は、このプログラムの効果を検証しながら、全ての在日米軍、さらには、米国海軍全体に提案されていくとのこと。

(5) 市としては、このプログラムが今後も確実に実行されていくことを注視するとともに、2度とあのような事件が起きないように申し入れました。

米海軍兵による 犯罪再発防止策について

在日米海軍司令部

これまでの米海軍の安心対策

- ・ 公共の場での飲酒規制
(午前2時～6時)
- ・ リバティーカードプログラム
- ・ 横須賀市民を安心させる為の
地域巡回プログラム
(パトロール体制: 70名以上
対象地域: 本町、汐入、横須賀中央
馬堀海岸、吉井)
- ・ 士官、上級兵曹が参加した繁華街に
おける見回り

- ・ 日本での生活・文化を理解するための
教育(新着任者)
- ・ 女性に対する暴力を抑止するための
徹底した教育
(上記の新着任者教育の特別プログラ
ム)
- ・ 基地内のテレビ、ラジオ、印刷媒体、
教育ビデオを利用した周知
- ・ ジョージ・ワシントンの乗組員や
ピュージェット・サウンド海軍造船所
の従業員及び彼らの家族に対しても
教育を実施



今回の事件で米海軍が直ちに取った対策 (1)

(4月3日～7日)

- 夜間外出禁止措置(午後10時～午前6時)
- 公共の場における飲酒を24時間禁止

(4月7日から14日の間:午前零時～午前6時は公共の場における飲酒を禁止、4月14日以降は土・日の午前2時から6時までの飲酒を禁止)

- 米海軍横須賀基地内でのアルコール販売の禁止



今回の事件で米海軍が直ちに取った対策 (2)

- 米海軍兵による暴力抑止のための全体会議の開催
- 横須賀基地司令部の訓練担当分隊が、ジョージ・ワシントンに派遣され、文化教育に加え、交通教育及び犯罪抑止のための教育及びトレーニングを実施



今回の事件の問題点の検証

- 迅速な脱走兵に関する情報提供の欠如
- 暴力行為に対する意識の向上
- 潜在的な暴力的行為の早期発見のための過去の記録の検証とその可能な限りの対策
- 地域の繁華街におけるより効果的な防犯対策の検討



再発防止のための問題点とその対応

問題点

1 脱走兵の情報提供の在り方

2 暴力行為に対する意識の向上

3 潜在的な暴力的行為の早期発見のための 過去の記録の検証とその可能な限りの対策

4 地域の繁華街におけるより効果的な防犯対策

対応策

- ・日米合同委員会合意の手続きに則り、米海軍の脱走兵情報を日本政府側へ提供
- ・在日米海軍における脱走時の連絡体制の徹底

- ・CAREプログラム

- ・凶器となりうる物の検査と管理方法の見直し

- ・繁華街の特定の飲食店への一時的立ち入り禁止措置(オフリミット)
- ・特定期間のパトロールの増強

CARE プログラム –

“その仕組み”

C = 統合した
A = 反暴力
R = 反省
E = 教育



横須賀は我々の故郷でもある!

訓練と教育を
受ける



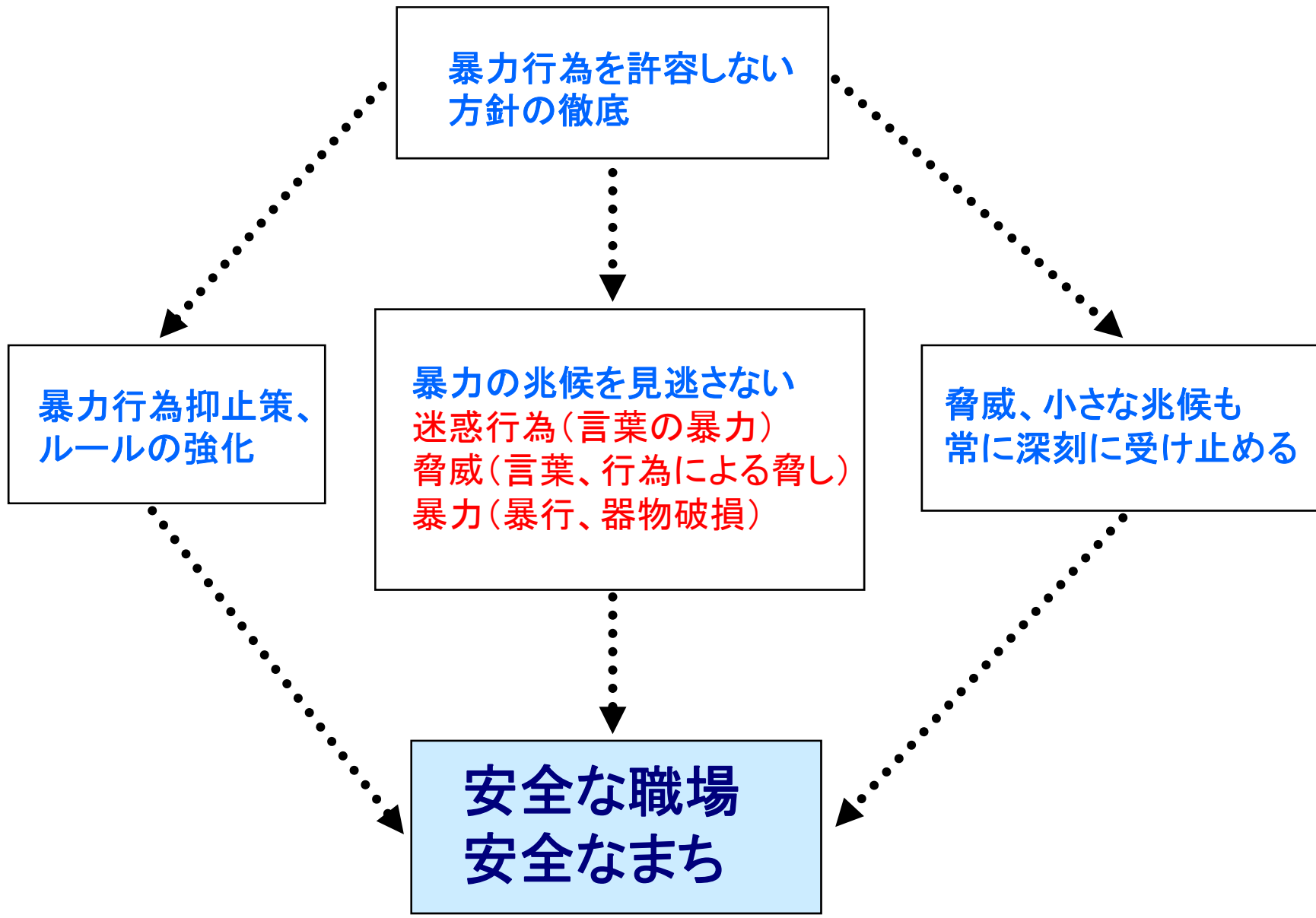
問題の認識と
発見



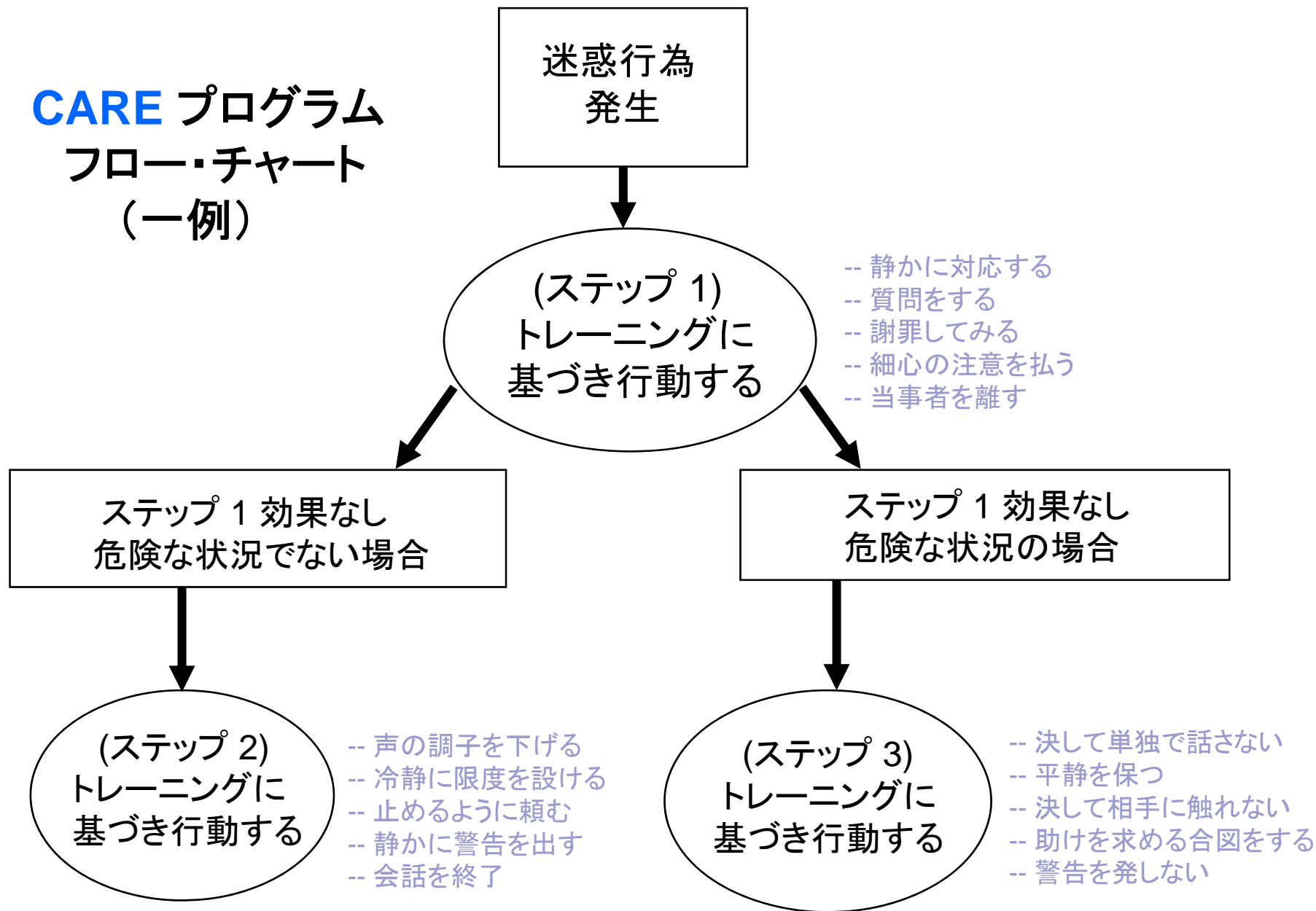
上司へ報告



問題解決へ向
けて対策、行
動する



CARE プログラム
フロー・チャート
(一例)

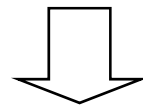


CAREプログラムの概要

■ 予 防

暴力に対する「許容ゼロ」政策を再び強調

米海軍第7艦隊と米海軍の全ての陸上部隊の上
司は、チェックシート(リーダーシップ・インジケー
ター)を利用して、部下の潜在的な暴力の兆候(イン
ジケーター)をチェックする。



問題がある場合には、サポートやカウンセリング



CAREプログラムの概要

■ 訓練

- ・反暴力の自覚を促す訓練をGTM(一般軍事訓練)計画に組み込み、常に実施
- ・起こりうる暴力的な状況をいかに打開するかを強調する事例研究やロール・プレイに参加するよう水兵を奨励
- ・各部隊は、CNFJホームページの「反暴力と危機対応チーム」のリンクに提供されている情報を議論、検討し、効果的な訓練を実施



CAREプログラム

今回、在日米海軍において策定したCAREプログラムは、さらに修正を重ねながら、中長期的には、反暴力のための予防・教育・訓練のプログラムとして、在日米軍にも提案していくものである。